

2014年01月01日から2025年09月30日の間に 当院で手術を受けた方とそのご家族へ

【研究課題】

ディープラーニングを用いた肝臓超音波画像の自動識別に関する研究 (2019166NI)

【研究の目的】

人工知能の一種であるディープラーニングを用いた肝臓の超音波検査映像から肝腫瘍を診断するシステムに関する研究を行います。超音波映像から肝腫瘍の良性・悪性の診断を行うことは難しく、正確な鑑別には熟練を要します。この研究では、肝腫瘍の医師の練度による診断精度の違いを最小限にするため、ディープラーニングを使用して医師の診断を支援するシステムの構築を計画しています。

【研究の方法】

この研究は、東京大学医学部倫理委員会の承認を受け、東京大学医学部附属病院長の許可を受けて実施するものです。2014年01月01日～2025年09月30日の間に手術にて取得した超音波検査映像データを用いて、ディープラーニングを用いた肝腫瘍の診断システムに肝腫瘍の検出方法を学習させる研究です。特に患者さんに新たにご負担いただくことはありません。

【個人情報の保護】

超音波検査映像データは、解析する前に氏名、患者IDといった個人情報を削り、代わりに新しく符号をつけ、どなたのものか分からないようにした上で、研究担当者のみ使用できるようにパスワードにてアクセス制限を課したパソコンで厳重に保管します。収集したデータは研究終了から5年保管の後、廃棄いたします。研究結果は、個人が特定出来ない形式で学会等にて発表させていただきます。

ご不明な点がありましたら問い合わせ先へお尋ねください。

本研究にご自分（あるいはご家族）のデータを使用してほしくない場合は下記の問い合わせ先まで 2026年02月28日までにご連絡ください。ご連絡をいたしかなかった場合、ご了承いただいたものとさせて頂きます。

【研究期間】

倫理審査委員会承認後～2026年09月30日

【対象となる方】

2014年01月01日～2025年09月30日の間に当院肝胆脾外科・人工臓器移植外科で肝細胞癌または、転移性肝癌と診断され、手術を受けた患者さん。

【研究責任者】

研究責任者 肝胆脾外科・人工臓器移植外科 長谷川 潔

研究分担者 肝胆脾外科・人工臓器移植外科 三原 裕一郎/伊藤 橋司/高山 真秀/
担当業務 データ収集・匿名化 宮下 真理

研究分担者 肝胆脾外科・人工臓器移植外科 唐子 顕児
担当業務 データ管理・データ解析

○本研究に関する費用は、東京大学医学部附属病院 肝胆脾外科・人工臓器移植外科の運営費から支出されています。
○本研究に関して、開示すべき利益相反関係はありません。

○研究にご協力いただけない場合でも、将来にわたって不利益が生じることはありません。

【研究から生じる知的財産権の帰属】

本研究の結果として特許権等が生じる可能性がありますが、その権利は国、研究機関、民間企業を含む共同研究機関及び研究従事者等に属し、皆様はこの特許権等を持ちません。また、その特許権等に基づき経済的利益が生じる可能性がありますが、これについての権利も持ちません。

2025年11月

【問い合わせ先】

肝胆脾外科・人工臓器移植外科 唐子 顕児
電話(代表):03-3815-5411 (内線 37129)
Eメール : kkarako@g.ecc.u-tokyo.ac.jp